科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：科学と疑似科学の間 ILAS Seminar :Between Science and Pseudoscience			担当者所属 職名・氏名	文学研究科　教授　　伊勢田　哲治		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	15 (12) 人	配当学年	主として１回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	文学部校舎第7演習室 (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	科学哲学 / 科学社会学 / 代替医療						

[授業の概要・目的]

科学のようで科学でないとみなされるもの、いわゆる「疑似科学」について調べて発表することを通じて、科学とは何かということへの理解を深めていくことを目的とする。
科学と疑似科学の間の境界をどのように設定するかという問題は、２０世紀後半の科学哲学において重要なテーマの一つとみなされてきた。また、科学と疑似科学の境界画定作業が持つ社会的な意味は、科学社会学的な検討の対象ともなってきた。そうした理論的な興味とは別に、代替医療やあやしげな健康・美容製品をはじめとして、疑似科学とされるものがわれわれの生活に与える影響もまた無視できないものとなっている。このセミナーでは、疑似科学というものについて考える上でのある程度理論的な視点を最初に身につけたあと、具体例についての発表とディスカッションやレポートの作成を通じて、現実への応用力を高めていく。

[到達目標]

科学と疑似科学を分ける特徴は何か、ひいては科学とは何かについての科学哲学や科学社会学における考え方を理解する。
疑似科学がからむ問題として、現代社会においてどのような問題が発生しているか知る。
科学哲学や科学社会学の視点を利用しながら、疑似科学と呼ばれるものについて分析し、考えることができるようになる。

[授業計画と内容]

講師によるレクチャーと受講生による発表から構成される。

第1回-第３回　講師によるレクチャー
第４回-第1３回　受講生による発表
第14回　まとめ
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席、発表、討論への参加）（60点）と期末レポート（40点）をもとに評価する。
・期末レポートは、４０００字程度のものを書いてもらう予定です。発表を膨らませて文章にしてもらってもよいし、他のテーマを選んでもかまいません。

ILASセミナー ：科学と疑似科学の間(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：科学と疑似科学の間(2)

[教科書]

伊勢田哲治 『疑似科学と科学の哲学』（名古屋大学出版会、2003年）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の前後に教科書を読むことで理解を深める。

[その他（オフィスアワー等）]

金曜 15:00-16:30